

授 業 概 要

科目名 ころとからだのしくみ I	授業の種類 講義	授業担当者 田才恵子・丸山保子 (実務経験者)	
授業回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1学年・通年	必修・選択 必修科目
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援をするために、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 人体の構造と機能を理解できる。 2 様々な疾患について基礎的な知識を身につける。 3 こころのしくみの理解ができる。 4 ケアを行うための考え方やかかわり方の基礎を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 健康とは <u>からだのしくみの理解</u> 2 からだのしくみを学ぶ意義 3 細胞・組織・器官 身体各部の名称 4 脳、神経 5 呼吸器、循環器 6 消化器 7 骨、筋肉 8 感覚器 9 泌尿器 10 生殖器、内分泌 11 血液、体液、リンパ 12 生命維持と恒常性 13 心身の調和 14 薬の知識 15 試験 <u>こころのしくみの理解</u> 16 脳のしくみ 17 脳のしくみ 18 認知・学習・記憶・適応のしくみ 19 認知・学習・記憶・適応のしくみ 20 高齢者の心理 21 高齢者の心理 22 高齢者への関わり方 23 高齢者への関わり方			

- 24 障害をもつ人の心理と関わり方
- 25 障害をもつ人の心理と関わり方
- 26 ストレスのしくみ セルフケア
- 27 ストレスのしくみ セルフケア
- 28 危機介入 ケアする人のメンタルケア
- 29 危機介入 ケアする人のメンタルケア
- 30 試験

[使用テキスト・参考文献]
 最新 介護福祉士養成講座 11
 「こころとからだのしくみ」中央法規出版

[単位認定の方法及び基準]
 規程の3分の2以上の出席であり、各試験による成績が60点以上の者に単位を認定する。

授 業 概 要

科目名 ころとからだのしくみⅡ	授業の種類 講義	授業担当者 佐藤ハナ子（実務経験者）
授業回数 30回	時間数（単位数） 60時間（4単位）	配当学年・時期 1学年 ・ 通年
必修・選択 必修科目		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護の視点からのころとからだのしくみについて講義形式で学ぶ。また、グループでのディスカッションや調査、発表等も織り交ぜながらころとからだのしくみについての理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護の視点からのころとからだのしくみ、ならびに生活過程を整えることの大切さを理解する。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ころのしくみの理解Ⅰ：人間の欲求の基本的理解（基本的欲求） 2 ころのしくみの理解Ⅱ：人間の欲求の基本的理解（社会的欲求） 3 ころのしくみの理解Ⅲ：自己概念と尊厳（自己概念に影響する要因、自立への意欲と自己概念） 4 ころのしくみの理解Ⅳ：ころのしくみに関する諸理論、思考のしくみ、学習・記憶・思考のしくみ、感情のしくみ、意欲・動機づけのしくみ 5 からだのしくみの基礎Ⅰ（人体部位の名称） 6 からだのしくみの基礎Ⅱ（生命維持・恒常のしくみ…バイタルサイン） 7 からだのしくみの基礎Ⅲ（関節の可動域、ボディメカニクス） 8 身じたくに関連したころとからだの基礎知識（身じたくの行為の生理的意味、爪・毛髪の構造と機能） 9 <u>身じたくに関連したころとからだのしくみ</u>（口腔清潔・口臭のしくみ） 10 <u>身じたくに関連したころとからだのしくみ</u>（機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響、変化の気づきと医療職との連携） 11 移動に関連したころとからだのしくみ基礎知識（移動行動の生理的意味、重心の移動、バランス、良肢位） 12 <u>移動に関連したころとからだのしくみ</u>（立位・座位・歩行保持のしくみ、筋力・骨の強化） 13 <u>移動に関連したころとからだのしくみ</u>（機能低下・障害が及ぼす影響、変化の気づきと医療職との連携） 14 中間まとめ 15 中間試験（解答・解説） 		

<p>1 6 食事に関連したところとからだの基礎知識（栄養素、一日に必要な栄養量・水分量）</p> <p>1 7 <u>食べることに関連したところとからだのしくみ</u>（生理的意味、食べるしくみ）</p> <p>1 8 <u>食べることに関連したところとからだのしくみ</u>（機能低下・障害が及ぼす影響、変化の気づきと医療職との連携）</p> <p>1 9 排泄に関連したところとからだの基礎知識（生理的意味、性状、量、回数等）</p> <p>2 0 <u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>（便・尿のしくみ、機能低下・障害が及ぼす影響、変化の気づきと医療職との連携）</p> <p>2 1 休息・睡眠に関連したところとからだの基礎知識（生理的意味、時間・リズム）</p> <p>2 2 休息・睡眠に関連したところとからだの基礎知識（関連したからだの器官）</p> <p>2 3 <u>休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ</u>（機能低下・障害が及ぼす影響、変化の気づきと医療職との連携）</p> <p>2 4 入浴、清潔の保持に関連したところとからだの基礎知識（生理的意味、関連したからだの器官）</p> <p>2 5 <u>入浴、清潔の保持に関連したところとからだのしくみ</u>（爽快感を感じるしくみ、皮膚の汚れ、発汗のしくみ）</p> <p>2 6 <u>入浴、清潔の保持に関連したところとからだのしくみ</u>（機能低下・障害が及ぼす影響変化の気づきと医療職との連携）</p> <p>2 7 <u>死にゆく人のところとからだのしくみ</u>（「死」の捉え方、終末期から危篤、死亡時のからだの理解）</p> <p>2 8 <u>死にゆく人のところとからだのしくみ</u>（「死」に対するところの理解…本人、家族等）</p> <p>2 9 <u>死にゆく人のところとからだのしくみ</u>（チーム・医療との連携）</p> <p>3 0 終講試験（解答・解説）</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>規程の 3 分の 2 以上の出席であり、試験で 60 点以上の者に単位を認定する。</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 1 1</p> <p>「ところとからだのしくみ」中央法規出版</p>	

授 業 概 要

科目名 障害の理解 I		授業の種類 講義	授業担当者 丸山 保子（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1学年 ・ 後期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体的・社会的側面に関する基礎的知識を習得する。また、障害の医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解し、障害のある人への対応について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の種類、原因、特性について理解する。 2 障害のある人の心理面を理解し、どのような支援が必要か考えることができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p><u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害とは 2 肢体不自由（運動機能障害）の種類・原因・特性 3 視覚障害の種類・原因・特性 4 聴覚・言語障害、重複障害の種類・原因・特性 5 内部障害（心臓機能障害・呼吸機能障害） 6 内部障害（腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害） 7 内部障害（免疫機能、肝機能障害等） 8 高次脳機能障害の原因と特性 9 重症心身障害の特性 10 知的障害の原因と特性 11 精神障害の種類と特性 12 高次脳機能障害の原因と特性 13 発達障害の特性 14 難病の種類・原因・特性 15 終講試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>規程の3分の2以上の出席であり、試験で60点以上の者に単位を認定をする。</p>	

授 業 概 要

科目名 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義	授業担当者 丸山 保子（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2学年・通年	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害についての基礎的理解を深め、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念、障害者福祉の基本理念について基礎的なキーワードの意味を説明できる。 2 障害のある人に対する介護の視点について説明できる。 3 障害のある人を支える家族への支援について考えられる。 4 障害のある人の生活を地域で支えるための多職種連携・協働について理解できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p><u>障害の基礎的理解</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念 2 ICIDH(国際障害分類)から ICF（国際生活機能分類）への変遷 3 障害者福祉の基本理念①（ノーマライゼーション） 4 障害者福祉の基本理念②（リハビリテーション） 5 障害者福祉の基本理念③（ソーシャルインクルージョン） 6 障害者福祉の基本理念④（障害者権利条約） 7 障害者福祉に関連する制度① 8 障害者福祉に関連する制度② <p><u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 9 障害のある人への支援（グループワーク） 10 障害のある人への支援（グループワーク） 11 障害のある人への支援（グループワーク） 12 地域のサポート体制 13 <u>家族への支援</u> 14 <u>連携と協働</u> 15 終講試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>規程の3分の2以上の出席であり、試験で60点以上の者に単位を認定をする。</p>	

授 業 概 要

科目名 認知症の理解 I		授業の種類 講義	授業担当者 丸山 保子（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1学年 通年	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得する。認知症のある人の日常生活に対し介護福祉士がどのようにアプローチしていけばよいか、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. 認知症の原因となる疾患と特徴的な症状について理解する。 2. 認知症に伴うこころとからだの変化について理解し、生活支援を行う必要性がわかる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p><u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u></p> <p>1 認知症とは 2 脳のしくみ 3 認知症の原因疾患と症状 4 認知症の原因疾患と症状 5 中核症状の理解 6 BPSD の理解 7 認知症と間違えやすい症状 8 若年性認知症 9 認知症の検査と治療 10 認知症の予防 11 認知症の人の体験の理解 12 認知症の人の生活支援 13 認知症の人へのかかわりの基本 14 <u>認知症を取り巻く状況</u> 15 終講試験（解答・解説）</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>規程の3分の2以上の出席であり、試験で60点以上の者に単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義	授業担当者 丸山 保子（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2学年・通年	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症の利用者個々の特性を踏まえたケアを提供するための知識や支援方法を学ぶ。家族、地域の力を活かした認知症ケアについて、家族支援のあり方、多職種連携・協働の在り方について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. BPSD に対するケアの方法を考えることができる。</p> <p>2. 認知症の人やその家族への支援や地域のサポート体制について説明できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 認知症ケアの歴史</p> <p>2 認知症ケアの理念と倫理</p> <p><u>認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</u></p> <p>3 認知症に伴う生活への影響</p> <p>4 認知症の特性を踏まえたアセスメント</p> <p>5 認知症の人への生活支援（事例検討）</p> <p>6 認知症の人への生活支援（事例検討）</p> <p>7 認知症の人への生活支援（事例検討）</p> <p>8 認知症の人への生活支援（事例検討）</p> <p>9 認知症の人への様々なアプローチ</p> <p>10 環境への配慮</p> <p>11 認知症の人の終末期の介護</p> <p>12 <u>家族への支援</u></p> <p>13 <u>地域における連携と協働</u>（地域のサポート体制・チームアプローチ）</p> <p>14 認知症に関する制度・関係機関</p> <p>15 終講試験（解答・解説）</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>規程の3分の2以上の出席であり、試験で60点以上の者に単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

科目名 発達と老化の理解 I		授業の種類 講義	授業担当者 丸山 保子（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1学年 ・ 前期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援の在り方を学ぶ。また、発達の観点から老化について理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の成長と発達について基礎的な知識を説明できる。 2 人間の発達段階と発達課題について説明できる。 3 老化の特徴と老年期の発達課題について説明できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p><u>人間の成長と発達の基礎的知識</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成長・発達の考え方 2 成長・発達に影響する要因 3 発達段階と発達過程 4 身体的機能の成長と発達 5 心理的機能の発達 6 社会的機能の発達 7 発達段階別にみた特徴的な疾病や障害① 8 発達段階別にみた特徴的な疾病や障害② 9 老年期の定義 10 老化とは 11 老年期の発達課題 12 老年期をめぐる今日的課題 13 グループワーク 14 グループワーク 15 終講試験（解答・解説） 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>規程の3分の2以上の出席であり、試験で60点以上の者に単位を認定する。</p>	

授 業 概 要

科目名 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 講義	授業担当者 丸山 保子（実務経験者）
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1学年 ・ 後期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活支援について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老化に伴う身体的・心理的・社会的機能の変化について説明できる。 2 老化に伴う身体的・心理的・社会的機能の変化に配慮した対応について考えることができる。 3 高齢者に多い疾患、症状、留意点について理解できる。 4 保健医療職との連携の必要性が理解できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p><u>老化に伴うこころとからだの変化と生活</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老化に伴う心身の変化の特徴 2 老化に伴う身体機能の変化と生活への影響① 3 老化に伴う身体機能の変化と生活への影響② 4 老化に伴う心理的機能の変化と生活への影響 5 老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響 6 高齢者と健康 7 高齢者に多い症状、疾患の特徴 8 廃用症候群と老年症候群 9 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 10 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 11 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 12 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 13 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 14 保健医療職との連携 15 終講試験（解答・解説） 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>規程の3分の2以上の出席であり、試験で60点以上の者に単位を認定をする。</p>	